

七条中学校だより10月13号

京都市立七条中学校

令和8年10月20日

発行:校長 林 秀雄

学校だより第100号～でも100号は通過点～

学校だよりが今回で100号を迎えました。1学期の終業式で、私は皆さんに「100号を目標に発行していきます」と話しました。そして今回、ついに100号です。学校だよりを書き始めた頃は、100号という数字がずっと先のように感じられました。しかし、一号一号積み重ねてきたものが、こうして100号という節目にたどり着いたことに、大きな喜びを感じています。

最近では、「もうすぐ100号ですね」「今何号ですか」と声をかけてくれる生徒もいます。他にも学校だよりの号数を気にしてくれている人もいると聞きました。ありがたいことです。そんな話を耳にすると、とてもうれしく、「読んでくれている人がいるんだな」と励まされる気持ちになります。

学校だよりは私が書いていますが、100号まで続けてこられたのは、皆さんが読んでくれた(?)からです。そう考えると、この100号は私一人のものではなく、七条中学校のみんなで迎えた100号なのかもしれません。もちろん、100号は一つの大切な節目です。目標としていた100号に到達できたことを素直に喜びたいと思います。しかし同時に、これはゴールではありません。私にとっても、皆さんにとっても、100号は新たなスタートへ向かう通過点です。

これまで学校だよりでは、憲法月間・人権・校外学習・定期テスト・部活動・体育の部や合唱コンクール・70周年記念行事・進路学習・地域の歴史の話など、さまざまな内容を取り上げてきました。

一見すると、それぞれ別々の話題のように思えるかもしれませんが、しかし、その根底には共通する願いがあります。それは、七条中学校が大切にしていることを皆さんに伝え、学校全体が同じ方向を向いて進んでいくことです。学校は単に知識を学ぶ場所ではありません。授業、行事、部活動、係活動、仲間との関わり、地域とのつながり、そのすべてが学びの場です。そして、その一つ一つに意味があります。

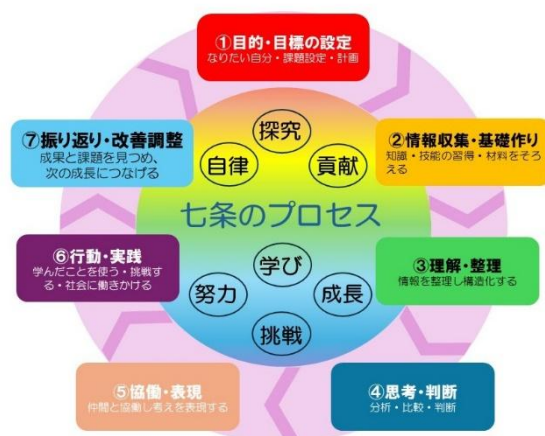
何気なく過ぎていくように思える一日も、決して同じ日はありません。今日学んだこと。今日挑戦したこと。今日失敗したこと。今日誰かと力を合わせたこと。そのすべてが皆さんの中に積み重なっています。

私はこれまでに、「結果よりも過程を大切にしてほしい」と何度も伝えてきました。それは、皆さんの成長は一度の成功や失敗で決まるものではなく、毎日の積み重ねによってつくられていくからです。一日一日の積み重ねは、やがて皆さんの成長につながります。そして、その成長は未来へとつながっていきます。

授業で考えること。仲間と協力すること。自分の意見を伝えること。相手の話を聴くこと。挑戦すること。振り返ること。こうした経験を何度も何度も繰り返していく中で、自ら考え、自ら判断し、自ら未来を切り拓いていく力が育っていきます。私は、それを「七条のプロセス」と思っています。日々の学校生活の中で学び、考え、行動し、振り返る。そのサイクルを何百回、何千回と繰り返し回しながら、人は成長していきます。

学校生活で経験する様々な出来事は、決してその場限りのものではありません。皆さんが努力したこと、悩んだこと、仲間と協力したこと、達成感を味わったことも、くやしい思いをしたことも、すべてが皆さんの血となり、肉となり、未来を支える力になっていきます。だからこそ、私は学校だよりを発行し続けています。皆さんが日々の出来事の意味を考え、自分自身の成長に気付く、次の一歩につなげてほしい。そして、七条中学校が大切にしている価値や願いを共有しながら、みんなで同じ方向を向いて進んでいきたい。そんな思いを込めて100号まで発行してきました。100号は一つの区切りです。しかし、ゴールではありません。皆さんの成長にも終わりはありません。私もこれから101号、102号、その先へと発行を続けながら、皆さんがさらに大きく成長していくためのお手伝いをしていきたいと思います。

皆さんには無限の可能性があります。100号は、その可能性へ向かう途中の一つの通過点です。これからも、一日一日を大切に積み重ねながら、自分自身の未来を切り拓いていってください。



七中祭を終えて ～一人ひとりの物語が学校をつくる～

今年の七中祭が終わりました。創立 70 周年という節目の年でもあった今年は、70 周年記念を意識したオープニングから始まり、体育の部、合唱の部、そして日々の学校生活や部活動に至るまで、皆さんの大きなエネルギーと成長を感じることができた特別な時間となりました。

体育の部では、各クラス、各団が競技や応援に全力で取り組みました。仲間と声を掛け合い、励まし合いながら競技に臨む姿はとても頼もしく、大きな達成感に満ちた一日となりました。特に応援は圧巻でした。応援リーダーを中心に、学年を超えて心をつにしながら創り上げた応援は、ここ数年の中でも特にまとまりがあり、見る人の心を動かす素晴らしいものでした。きっと今年の応援は、七条中学校の新たなレガシーとして受け継がれていくことでしょう。

そして合唱の部では、各クラスの熱量に心を打たれました。クラスや学年での練習、パート練習、クラスでの話し合いなど、それぞれのクラスが様々な課題と向き合いながら本番の日を迎えました。皆さんが真剣に合唱と向き合う姿、一つの音楽を創り上げようとする姿勢は、本当に素晴らしいものでした。だからこそ、結果発表の瞬間に見せた皆さんの表情が強く印象に残っています。喜びにあふれる姿もあれば、悔しさをこらえる姿もありました。その一喜一憂に、私は言葉が出ませんでした。それは、皆さんが本気で取り組んだからこそ生まれた感情だったからです。どのクラスにも、どの生徒にも、それぞれの物語がありました。あるクラスの指揮者は、普段はあまり感情を表に出さない人だったそうです。しかし本番では、満面の笑顔で仲間に向かって指揮をしていました。演奏が終わった後も、結果発表まで両手を合わせて祈り続けていたそうです。また、ある伴奏者は夏休みから一生懸命練習を重ねてきました。しかし本番が近づくにつれて不安が大きくなり、自信を失いそうになった時期もあったそうです。それでも仲間や先生方の支えを受けながら努力を続け、本番では見事な伴奏をやり遂げました。さらに、ステージ上で仲間たちが真剣に歌う姿を見て、自分でも理由が分からないまま涙があふれてきた人もいたそうです。そこには、これまで積み重ねてきた時間や仲間への思い、自分自身の成長への実感など、言葉では言い表せない様々な感情があったのかもしれない。

皆さん一人ひとりに物語があります。成功したことも、悔しかったことも、思うようにいかなかったことも、仲間と過ごした時間も、そのすべてが皆さんの大切な財産です。学校行事は賞を取ることでしか目的ではありません。仲間と共に悩み、考え、挑戦し、一つの目標に向かって努力する過程そのものに大きな価値があります。そして、その経験は必ず皆さんの未来につながっていきます。私は今年の七中祭を通して、皆さんの大きな成長を感じました。個々にはまだ課題もあるでしょう。しかし、それ以上に、一人ひとりが自分の可能性を広げ、仲間とのつながりを深めていることを強く感じています。

上記でも記述しましたが、学校だより第 100 号という節目にあたり、繰り返し皆さんに伝えたいことがあります。皆さんには無限の可能性が 있습니다。その可能性は、特別な誰かだけが持つものではありません。日々の授業、部活動、学校行事、人との関わりの中で、一歩ずつ挑戦を重ねることで育っていくものです。七中祭で見せてくれた情熱や努力、仲間を思う心を、これからの学校生活にも活かしてください。そして、さらに大きく成長した皆さんの姿を見せてくれることを心から期待しています。

創立 70 周年の七条中学校の歴史は、先輩方から受け継がれてきたものです。そして今日からは、皆さん自身が新たな歴史をつくっていく番です。七中祭で得た経験を力に変え、自分の未来を、自分たちの学校の未来を、これからも仲間とともに切り拓いていきましょう。

埋蔵文化財発掘調査について

先週より、新校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査が始まっています。調査は 2 学期の終業式頃まで行われる予定で、グラウンド西側を規制して進められています。そのため、体育や部活動などでグラウンドを使用する際には、しばらくの間、不便をかけることとなりますが、ご理解とご協力をお願いします。

七条中学校周辺は、長い歴史をもつ地域です。これまでの校舎建替え工事の際にも、平安時代の土器などが出土しており、この地域に暮らしていた人々の足跡を知る貴重な資料となっています。今回の調査は、これまで十分に調査されていなかった場所を対象としており、新たな発見があるかもしれません。私たちが日々学び、活動している場所の地下には、遠い昔の人々の暮らしの痕跡が眠っていると考えると、とても興味深いことです。また、調査期間中は工事車両や関係車両の出入りがあります。グラウンドやその周辺で活動する際は、周囲の状況をよく確認し、安全に十分注意して行動してください。

新校舎建設は、これからの七条中学校をつくる大切な事業です。そして埋蔵文化財調査は、この地域の歴史や文化を未来へとつなぐための大切な取組でもあります。過去から受け継がれてきた歴史を大切にしながら、新しい七条中学校の歴史を皆さんとともに築いていきたいと思ひます。